

# 連用修飾で用いられる感情表現の特徴

## －中国語との比較から－

孫 琦

### 1. はじめに

人称制限という視点からの日本語の感情表現と中国語の感情表現の異同についての研究は以前からもなされてきた。しかし、人称制限の問題だけでなく、日本語と中国語の感情表現にはほかにもはっきりとした違いが見られると思われる。本稿では、感情表現のうち、動詞に係る連用修飾成分である場合について、日本語と中国語の違いを見てみたい。以下の中国語の例文の日本語訳は筆者が付けたものである。（「\*」の付いた文は日本語として不自然なものである。）

[1] aトセは苦しそうに肩であえいだ。『塩狩峠』

b\*私は苦しくあえいだ。

[2] 我痛苦地看见, 姑姑也站在里边! 『我和五叔』

(aおばさんもその中に立っているのを見て、私はつらかった。)

(b\*おばさんもその中に立っているのをつらく見た。)

日本語では、例[1]bのように、一人称の場合「私は苦しく～した」「私はつらく～した」のような言い方は一般的ではない。これに対し、中国ではこのような連用修飾が可能となる。例[2]の中国語の例文を訳文bのようにそのまま感情形容詞の連用修飾の構文の形で自然な日本語に訳すことはできないので、形容詞の終止用法などを用いることになる。

本稿は、一人称の場合を中心に、連用修飾に用いられる日本語の感情形容詞およびその他の感情を表わす表現を、中国語と対応する表現と比較することによって、その構文的特徴を明らかにすることを目的とする。もっとも、

中国語と日本語の形容詞の分類のしかたが異なるため<sup>(註1)</sup>、単純に比較することはむずかしいが、本稿はあくまで日本語を中心に考察し、それに対応すると思われる中国語の感情表現を合わせて見る。そうすることによって、日本語の特徴をよりいっそう明らかにすることができるのであろう。なお、用例に関しては、日本語の用例はすべて文学作品から採取した実例で、中国語の用例は実例と作例を用い、実例の場合は作品名を明示した。(詳しくは使用資料をご参照)

## 2. 感情形容詞による感情表現の場合

### 2.1 連用修飾の場合の感情形容詞の使用

日本語の感情形容詞12語を対象に、CD-ROM版『新潮文庫の100冊』のうちから翻訳の作品などを除く66作品から、動詞を連用修飾する用例<sup>(註2)</sup>を検索した結果、一人称の場合の感情形容詞による連用修飾の用例数は以下の通りである。

形容詞	たのしく	うれしく	さびしく	かなしく	なつかしく	はずかしく
用例数	25	4	12	6	4	2
形容詞	くるしく	くやしく	おしく	こわく	つらく	にくく
用例数	2	0	0	0	0(13) <sup>#</sup>	0

# 「つらく」の13例はすべて「つらく当たる」であり、それ以外は0例である。「つらく当たる」の場合の「辛く」は話し手の感情を表すのではなく、相手を「辛くさせる」という意味で使われる。

「たのしく」を除いて、連用修飾で用いられる感情形容詞の例文は極端に少なかった。まったく用例が見られないものもあった。採取した用例の中でも、日常的に話しことばや書きことばでは使われないような、文学的な表現もある。具体的な用例は後述で必要に応じて挙げることにする。

## 2.2 感情形容詞と動詞との意味関係

実例はそれほど多く採取されなかったが、文学作品にみられたいくつかの用例を中心に、もうすこし細かくその形容詞と動詞の意味関係を考えて、いくつかのパターンに分類することを試みる。「うれしい」を例にして見てみよう。

[3]\*私はうれしく昔の友達に会った。(作例)

[4]私は、夫人が置き忘れたこうもり傘を、手に握って、うれしく追いかけていくと、『火宅の人』

[5]郁雄が切ない表情をするのを、百子はうれしく眺め、そんな時の男の我慢している顔を魅力的だと思う<sup>(註3)</sup>。『長すぎた春』

それぞれの用例のうち、感情を表わす形容詞「うれしい」と行為を表わす動詞の間の意味関係は一様ではなく、それぞれ以下の①②③に解釈することができる。

- |   |                        |                        |
|---|------------------------|------------------------|
| { | ① (結果-原因)              | ～Vすることによって、～しい         |
|   |                        | [3']昔の友達に会うことによって、うれしい |
|   | ② (並列 先後)              | ～しくなって (思っ)、そしてVする     |
|   | [4']うれしくなって、そして追いかけていく |                        |
|   | ③ (修飾 同時)              | ～しく思いながら (気持ちで) ～する    |
|   |                        | [5']うれしい気持ちで眺める        |

連用修飾として可能になるのは、③の場合のみではないかと判断される。いくら文学的表現で例外があるといっても、①の場合の連用修飾が自然な日本語としても許されることはないと思われる。この場合、日本語ではふつう形容詞の叙述用法を用いて表現する。②並列の場合の構文的特徴として、形容詞と動詞との間に「、」を入れることができ、いわゆる形容詞の中止法である。以下、それぞれの場合の用例を挙げておく。

【①の〈結果－原因〉の場合】

- [6]\*悔しく試合に負けた。(試合に負けて悔しかった。)
- [7]\*母が苦しんでいるをつらく見た。(母が苦しんでいるのを見てつらかった。)
- [8]\*皆の見ている前で恥ずかしく転んだ。(皆の見ている前で転んで恥ずかしかった。)
- [9]\*苦しく走った。(走って苦しかった。)

【②の〈並列〉の場合】

- [10]メロスは口惜しく、地団駄踏んだ。『走れメロス』
- [11]私は恥ずかしく、女たちに背を向けてそろそろ這い上りかけると、  
『忍ぶ川』
- [12]図体ばかりでかくて滅法弱い代名詞であるその名を名乗ることは恥ずかしくためらうべきことであつたが、峻一は皆からおだてられて蔵王山と称し、『楡家の人々』
- [13]母がいった。私はうれしく、「うん。」と素直に首肯できた。『忍ぶ川』

【③の〈修飾〉の場合】

- [14]恵子と二人、この女史の帰って行く後ろ姿を淋しく眺め送ったことがある。『火宅の人』
- [15]次の年の私は…庭の木の葉が散って行くのをかなしく眺めていた。  
『忘却の河』
- [16]六月の霖雨の最中に来て借りた鍛冶町の家で、私は寂しく夏を越したが、まだその夏のなごりがどこやらに残っていて、『山椒大夫』
- [17]どうしたらいいんでしょうか、と私は苦しく冗談めかしていた。  
『アポロンの鳥』

2.3 中国語の場合

述語を連用修飾するのに用いられるものは、中国語では「状語」という。

「状語」はさらに「限定性状語」と「描写性状語」に分類される。日本語における感情形容詞による連用修飾に当たるものは、「描写性状語」のうちの「動作主を描写するもの」である。この種の連用修飾語の働きは、動作主が動作を行う時の様子の描写であり、文学作品に多く見られる。修飾語となる形容詞は副詞接尾辞「地」を伴い、動詞を連用修飾できる<sup>(註4)</sup>。例は以下の通りである。なお、日本語訳は便宜上三人称の場合にしたが、中国語のほうは基本的に一人称も三人称も同じように表現することができる。

不安地问 (心配そうに尋ねる) 不满地说 (不満そうに言う)  
高兴地玩 (楽しそうに遊ぶ) 愉快地收下 (うれしそうに受け取る)  
恋恋不舍地离开 (名残惜しそうに別れる)

中国語では、前述の日本語①②③のような形容詞と動詞の意味関係のパターンにおいて、基本的には連用修飾の形で表現することができる。

- [22] 我痛苦地看见, 姑姑也站在里边! 『我和五叔』 ①  
(おばさんもその中に立っているのを見て、私はつらかった。)
- [23] 我高兴地接过了他的礼物。①  
(私は彼からプレゼントを受け取って、うれしかった。)
- [24] 我委屈地哭了。②  
(私は悔しくて泣いた。)
- [25] 我一个人在家无聊地摆弄着扑克牌。『中日辞典』 ③  
(一人で家で所在なくトランプを並べている。)
- [26] 我难过地望着他离去的身影。③  
(私は彼が去っていく姿を悲しく眺めていた。)

①の原因－結果の場合については、日本語では形容詞の叙述用法を用いるのがふつうであるが、述語を中心とする日本語と違って、中国語ではこの場合でも形容詞の連用修飾が可能なのは、日本語と中国語の語順の違いという

基本的な文法構造によるものであると考えられる。もちろん①②の場合、中国語でも日本語と同じように、叙述用法や中止法を用いて表現することができる。例えば、[23][24]をそれぞれ以下のように言い換えることができる。

[23'] 我接过他的礼物，很高兴。

(私は彼からプレゼントを受け取って、うれしかった。)

[24'] 我感到很委屈，哭了。

(私は悔しくなって、泣いた。)

例[23][24]と[23'] [24']を比べてみると、同じ事柄を表現しているには違いないが、[23][24]のほうが書きことばの文として、自然な中国語としてより簡潔で落ちつくように感じる。それに対し、[23'] [24']の文は文章の中ではすこし冗長な感じを与え、描写性に乏しいと感じられる。このように、中国語の連用修飾による感情表現は、様態や状況を客観的に捉えて簡潔に描写する、といった表現の特徴があるといえる。

### 3. 感情形容詞以外による感情表現の場合

#### 3.1 日本語と中国語の違い

ある行動をとる時の気持ち・心のありようが連用修飾句によって表現される場合、感情形容詞・形容動詞の連用形のほかに、日本語では様々な連用修飾の形が現われる。例文はすべて一人称の場合である。

#### 【日本語】

[27] 私はそれを何かしら心苦しいような思いで見ている。『かげろうの日記』

[28] そこで、せつかくの気持ちを乱されたことを不満に思いながら立ちあがった。『女の一生』

[29] この夜、僕は至極愉快な気分で帰途についたのだが、『懐中時計』

[30] びくびくしながら路を急ぐ 『歌行燈』

[31] おそるおそる 交番で目当ての家の所在を訊ねた。『ろくでなしのサンタ』

[32] 断わるわけにはいかず、しぶしぶつきあっているうちに、『さぶ』

日本語のこのような様々な表現に対し、中国語では基本的に状語による修飾の形で言い表すことができる。

### 【中国語】

[33] 我 提心吊胆地 问道：老师不知道那件事吧？『常用動詞辞典』

(私はびくびくしながら「先生はあのことを知らないでしょうね」と聞いた。)

[34] 我 不满地 摇了摇头。

(私は不満に思い、頭を横に振った。)

[35] 我 高兴地 问他：放出来了？『我和五叔』

(私は嬉しくなって、「出て来たの?」と彼に聞いた。)

[36] 我 不耐烦地 等了他一会儿。

(私はいらいらしてしばらく彼を待った。)

## 3.2 まとめ

日本語の感情表現による連用修飾の場合において、過去に起きたことについて自分がどんな気持ちで行ったかを表現しようとするとき、主観的な感情から離れて、客観的に叙述するためには、中国語と比べると、日本語では感情形容詞の連用形そのままでは用いられにくい、ということが分かった。そのような場合3.1でも一部示したが、以下のような客観性を帯びる表現で叙述することが多い。

○外面に現われる人間の様子、態度、感情を表わす形容動詞や副詞。

・～そうに、～げに (三人称)

・びくびく、いらいら、しぶしぶ、いやいや、どきどき…

○感情形容詞を用いる場合、連用形ではなく、ほかの構文的要素を介在させ、内面的感情を客観化・状況化する。

- ・～と思いながら
- ・～思い（気持ち・気分）で

このほかにも、比喩などによる様々な連用修飾の感情表現が見られる。

一方、中国語の連用修飾による感情表現の場合、人称にかかわらず一般的に「形容詞＋地＋動詞」そのままの形で表現することができる。中国語母語話者に対し、このような日本語の連用修飾の場合の感情表現の特徴に注意して指導をしなければならない。中日翻訳の場合においても工夫が必要となってくる。

#### 4. 終わりに

中国語と日本語において、感情を表す語句による連用修飾について比較した時、文章などのフォーマルな場合の客観的な叙述に用いられる、という点に関しては共通するが、しかし全体的に、日本語の感情形容詞は連用形のままだと、過去において行為が行なわれた時の人間の様子や感情を客観的に表すには用いられにくいことがわかった。それを叙述するには、日本語では様々な構文的工夫が必要である。

一方、中国語で感情形容詞による連用修飾が一般的に見られるのは、中国語の状態形容詞は日本語の感情形容詞に比べて描写性があり、言い換えれば人間の主観的一時的な感情を表わすより、客観的な描写性が備わっているからであるといえる。このような感情を表わす形容詞の中日両国語の意味機能の違いが、連用修飾の構文については人称の制限にも反映していると考えられるのである。

#### 注

- (1) 中国語における形容詞の分類は、意味的特徴からは「性質形容詞」と「状態形容詞」といったような分類があり、構文的特徴からは「一般形容詞」と「非述形容詞」という分類がある。日本語の感情形容詞は「状態形容詞」で「一般形容詞」にあたる。
- (2) 被修飾語の動詞のうちから、「する」「なる」および、「思う」「感じる」「見える」のよ



うな、形容詞が動詞を内容修飾すると思われる用例を除いた。

- (3)例[5]の「眺める」の動作主は三人称であるが、この場合作者は文学作品によく見られる感情移入の描写手法を用いて、一人称の場合と同じように動作主の状態を表現していると考えられるので、ここで例として挙げた。
- (4)日本語形容詞が連用修飾の形を採っているものを中国文法に当てはめ、鈴木1987では以下ように分類している(p. 47)。

1)形容詞(?)+動詞    2)形容詞+「地」+動詞    3)動詞+「得」+形容詞    4)構造の変換

本稿は、中国語の感情を表わす修飾成分に最も一般的に見られる<形容詞+「地」+動詞>の場合のみ考察したが、いわゆる補語の形をとる<動詞+「得」+形容詞>の場合やそのほかの形をとる場合についても今後さらに検討すべきである。

#### 参考文献

- 鈴木義昭 1987「日中形容詞の対照—連用修飾作用をめぐって—」  
『早稲田大学語学教育研究所紀要』(34) 1987
- 細川英雄 1989「感情形容詞の連用修飾用法について」『近代語研究』第8集
- 中村 明 1993『感情表現辞典』東京堂
- 刘 月华 他 1988『現代中国語文法総覧』相原茂監訳 くろしお出版
- 朱 德熙 1995『文法講義』白帝社

#### 使用資料

- 『中国語常用動詞例解辞典』荒屋勸主編 日外アソシエーツ 1995
- 『中日辞典』北京商務印書館・小学館 1995
- 『我和五叔的六次相遇』路遥
- CD-ROM版『新潮文庫の100冊』新潮社版NECハイブリッド1995 新潮社
- 『塩狩峠』(三浦綾子)／『忍ぶ川』(三浦哲郎)／『新源氏物語』(田辺聖子)／『山椒大夫』(森鷗外)／『さぶ』(山本周五郎)／『楡家の人々』北杜夫／『火宅の人』(壇一雄)／『かげろうの日記』(室生犀星)／『走れメロス』(太宰治)／『忘却の河』(福永武彦)／『アポロンの鳥』(小川国夫)／『懐中時計』(小沼丹)／『歌行燈』(泉鏡花)／『ろくでなしのサンタ』(浅田次郎)／『長すぎた春』(三島由紀夫)